

# 防災— 亡き妻が遺したもの

## 7th chapter 復興生活編

## 第四回

目を覚ますと、そこは老人用養護施設だった—。

過酷な生活を送り、公園で行き倒れた(?)時三は、老人用養護施設に収容され、人たるに値する生活を満喫していた。そしてそこで、亡き妻の面影を湛えた女性に会う。

だがつかの間の幸せは、養護施設の財政難に絶えず脅かされ続ける幸せであった。時三は、ささやかな幸福を守るため、荒廃しつつある養護施設を救うため、ついに立ち上がる。

### 時三(65)



ついに防災ボランティアの実力発揮か。熱い男の血がたぎるぜ。

養護施設というのは災害弱者が多数居住する場所なので、もし諸君が被災されたときでも、優先して救助してあげてほしい。

### ロドリゲス(??)



時三の危機を聞きつけ、援軍として駆けつける。彼のような震災時のボランティアの活躍によって、被災後の二次被害はぐっと減る。

ところでボランティアというのは、何も被災地外から駆けつけるだけではない。被災地の市民の協力は何よりも得がたい。

### 復興への道のり



被災した地域の復興はおおよそ以下のような段階を経て進んでいく。

1. 避難生活の安定
2. インフラの整備
3. 個人の住居の再建
4. 就職等の公的生活への復帰
5. 心の癒し
6. 新生活へ

被災してから精神的に立ち直るまではおおよそ1年、被災してから経済が立ち直るまではおおよそ10年かかる。長期戦になるのは必須じゃ

## 避難生活の安定

復興生活に取りかかるためには、避難生活が安定することが前提となる。

というのも、めちゃくちゃにされてしまった生活を復興するのは並々ならぬエネルギーが必要じゃから、そのエネルギーを生むに値するだけの生活を営めなければ、生活復興に勤しむことはおぼつかぬ。

避難生活が安定したといえるためには、最低限「余震などの追加災害のおそれが著しく減少したこと」、「食料・衣料・医薬品などの補給ラインが確立したこと」、「精神的に震災のショックから立ち直った」などの諸条件をクリアしなければならないじゃろうな。先は長いが、急いで事はし損じるぞい。

### Further study

#### 避難生活の心得(再掲)

避難生活については前号で詳しくやったのじゃが、前号を見ていない読者のために要約して再掲しておくぞい。

#### 1. 体調管理に気をつけろ！

飢えは我慢でしのげるが、病気やケガは耐え難いぞ。

#### 2. 秩序だった行動を

震災後は一種の無秩序状態。みんなの協力と忍耐が必要じゃ。

→被災者の自宅に補給物資を運び込んでいる様子。補給物資が自宅まで運び込まれるということは、余震が収まり、交通・治安がある程度復旧しているという事の証明に他ならない。後は心の準備さえ出来れば生活の復興に着手できるじゃろう。



時三はロドリゲスと共に物資の調達をした！  
生活に必要な物資が増えた！  
被災者意識が払拭された！  
時三の生活レベルが1上がった！

—next stage! to be continued...▼

## インフラの整備

復興生活は公私両面から進められていくが、ここでは公的な再建計画を取り上げることとするぞい。

まず再建は、瓦礫の処理などの対処療法から始まる。そこから水道管や道路の補修など避難生活に必要な支援へと段階を踏んでいき、仮住居の再建という大きなターニングポイントを経て、町全体の再建が完成する。大規模な修復工事が始まるようになると、町の復興は近いと言えるじゃろうな。

### Further Study

#### 復興感と被災者

復興したと言えるためには、単に建物や経済が元に戻っただけではなく、被災者が実際に被災期を脱したと感ずる必要がある。

公共事業に関して言えば、建築ラッシュが続いたり、夜の町が明るくなったりすると復興感が高まる。また、まちの共有物に思い入れがあると復興感が強まるといふ興味深いデータもある。

→自衛隊員による瓦礫撤去の様子じゃ。震災があるや否や駆けつけてくれる自衛隊は、震災時には非常に頼もしい存在といえるのう。他にも、炊き出しや、被災者の救助などをやってくれるぞ。



時三の住居近辺の街灯が増えた！  
治安が1上昇した！  
復興感が強まった！  
時三の生活レベルが1上がった！

—next stage! to be continued...▼

スランプ、ということが起きるほど私はなにかに秀でてる人間ではないのですが…やる気がなくなって、鬱っぽくなったら現実逃避です。音楽聞きます。歌います。ゲームします。マンガ読みます。泣きます。寝ます。それにしてもDr.スランプアアレちゃんはなにかスランプを解決してくれるのか?! (じぇにい)

## 住居の再建

八割ぐらいの家は、住むのは可能な程度に生き残るので、比較的早期に生活復興に力を注げる。その場合は震災でめっちゃくちゃに汚れてしまった家の掃除や家財の整理などが住居再建の大きな仕事となる。

が、残念なことに二割ほどの人は家が全壊してしまっている。その場合は避難生活は長期化することを覚悟しなければならない。家は一生の財産、たとえ公的援助を受けたとしても家を再び建てるのは容易なことではないからじゃ。多くの人は避難所を出た後、親戚の家や近隣者の家を頼って生活する事になる。そして仕事を再開し、ある程度の生活的余裕ができればアパートに入ってマイホーム再建の機をうかがうことになるじゃろう。

### Further Study

#### 住居とお金のお話

住居の再建には何かと金がかかるが、その全てを個人が賄わなければならない、ということはない。あまり額は大きくはないが、公的な援助ができる。その際には被災状況を証明する写真があると便利じゃ。

もし保険に入っていれば、そこからお金がもらえることもある。入っている保険も要チェック。

→今にも崩れそうなマンション。被災した建物は外見からは窺えないダメージを受けていることがあるため、震災後しばらくしてから倒壊することもある。被災した建物に戻るときは、建物の構造に問題がないことを真っ先に確認するべし。



時三はロドリゲスと共にぼろぼろの住居を修繕した！  
快適な生活が送れるようになった！  
復興感が強まった！  
時三の生活レベルが1上がった！  
—next stage! to be continued...▼

## 業務再開・再就職

職場の8割は何らかの形で被災するので、震災があれば多くの会社は一時的に休業することになるだろう。多くの会社は、散乱する資料の整理に終われることになるだろうし、コンピューターも震災に弱いので業務をするところではないはずじゃ。またもし勤務先が無事でも、交通・流通が麻痺してしまえば一部の業種を除き結局は商売にならぬ。

1～2ヶ月もすると仕事や学校は一応再開されるようである。しかし中には、震災の影響でそのまま廃業・退職を余儀なくされるケースも少なくない。

### ワンポイント Advice

#### 出来るだけ姿勢を低くする

→煙や熱は上に行くので避ける。

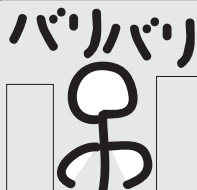
#### 逃げ口を背にして消火する

→万が一消火に失敗したときも容易に逃げ出せよう。

#### 水をかけて完全に消す

→火が消えたように見えてもまだくすぶってるかもしれない。

→こちらは銀行の倉庫の様子。乱雑に崩れてしまった倉庫の中身を整理しつつ、引き出しの殺到に対応しなければならないという激務に追われている。他にもコンビニなどの小売業などは、震災が起こると物資を求めて人々が押し寄せることになって大変じゃ。



既決 未決

時三は企業戦士に復帰した！  
生き甲斐がもたらされた！  
復興感が強まった！  
時三の生活レベルが1上がった！  
—next stage! to be continued...▼

## 精神状態の安定

財産・経済状態の再建も重要じゃが、精神状態もまた再建・安定させなくてはならぬ。

被災がもたらす精神への悪影響としては、第一に地震そのものによるショック、第二に避難者生活または二次災害におけるショック、第三に一生涯つきまとうことになる心的外傷後ストレス障害(PTSD)が挙げられよう。

いずれも発生は不可避であるが、症状を軽減していくことは可能である。カギとなるのは、同じ境遇にある人との連帯感。近所づきあいがあったり、家族と十分な信頼感が醸成されていたりするとストレスが溜まりにくくなり、精神の安定も保たれるようじゃ。

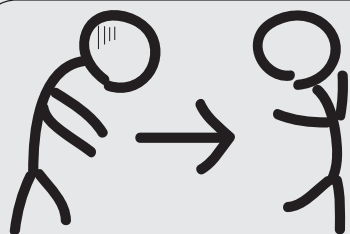
### Further Study

#### ストレスの受けやすさ

驚くかもしれぬが、実のところ世代別に見ても、性別で見ても、ストレスの受けやすさに統計上有意な違いは見受けられないのじゃ。ストレスをどの程度感じるかは、年齢・性別・職業といった属性などではなく、被災者個人個人の性格や他者との関わりの度合いによって決定されると言えよう。

→プライバシー保護のため写真でお見せできないのが残念じゃが、ストレスなどの心理的障害を癒やす一番の方法は、専門家によるカウンセリングじゃ。心理的なショック・疲労で死者が出ることもあるため、阪神大震災以降はカウンセラーも現地入りをするようになった。

No Picture



時三は心理カウンセリングを受けた！  
精神上の毒が吐き出された！  
精神的な再建を遂げた！  
時三の生活レベルがMAXになった！  
—next stage! to be continued...▼

## 被災後の時代へ



冒頭にも書いたが、被災してから経済的に立ち直るためにはおよそ10年の時間が必要になる。じゃが経済的に復活を遂げたとしても、それでHappyEndになるわけではない。

A: 震災を機に地域の連帯が生まれ、力強く復興を遂げる

B: 震災が元で地域がバラバラになり、復興は外見だけに終わる

この二つの将来のうちどちらの未来を辿ることになるかは、震災生活・そしてその後の被災者の意識によって決まることになる。

ぬ？わしはどうなったかじゃって？むふふふふ…秘密じゃ。

次回は、震災時の特殊な状況編です。

次回、時三編ついに感動のグランドフィナーレか！？

文責：ひでっちょ

スランプなど相手にせずに進めるのみ。ところで、スランプっていうのは成長に必要ならしいですよ。(ひでっちょ)